

●桂川に竹蛇籠実現 11 月 12 日 保津川漁協

2006 年に河川レンジャーが誕生して木津川での魚とりを実行してきました。木津川沿川の各地の学校から、多いときには 800 人の応募者が押し寄せました。ライフジャケットの総数が 100 人分しか用意出来なく、大多数がはみ出しました。その後市町村別に行う方式に変えて宇治、旧久世郡、旧綴喜郡、相楽郡域の四回会場での参加募集方式に改めました。それでも一会場に 100 人を超える応募となりました。そして採取できる魚が全くいないという開催日があり、笹竹を数日前から用意しておくことや導水路を切り開くなどの苦労を重ねてきました。しかし苦労の割には成果に結びつきませんでした。結局小魚が住み着ける環境がなかったのです。そこで環境づくりが必要との結論から、竹蛇籠の製作設置の取り組みが始まりました。木津川の河床低下による影響が大きいと学び、土砂の変動で川は川が作るとする伝統的河川工法を試行することになり、中聖牛の設置に取り組みました。2021 年までに 15.2 km 地点に 4 群 15 基、20 km 地点に 1 群 4 基の中聖牛を設置。そして 2022 年度は木津川から桂川（嵐山・渡月橋の下流 400m 地点）に竹蛇籠（三群・6 本）を設置。これは保津川魚協の施行への関心が高く、京都大学防災研究所の協力で、10 月 10 日、15、16 日の竹蛇籠製作講習会に 3 日間で 74 人の動員で 6 本を作り上げ、11 月 7 日に設置固定化を 20 人で行い、12 日には人海戦術（26 人）で石材（河原の玉石）を投入して完成させました。京都の観光名所である嵐山渡月橋の下流に、人力で竹蛇籠が設置できたことは特筆すべき成果でしょう。

**●次は京都大学 宇治川ラボラトリーに中聖牛設置を**

2022 年度の大きな事業として京都大学の防災研究所の宇治川ラボラトリーの構内にモデルとしての中聖牛の設置することになっている。そのために竹蛇籠（9 本）の製作講習会を 11 月の 19、20 日と 26、27 日に開催します。竹蛇籠製作講習会を国交省の協力を得て開催できるのはこれが最後ではないかと考えられています。そういった意味では大変貴重なチャンスでありますので、ぜひ多くの皆さんで製作をしてみたいと思っています。今回は河川敷ではなく校内という特別な場所での取り組みですので参加が容易であります。こぞって誘い合わせてご出席いただける催しです。駐車場も広く用意されていますのでご心配なくお越しください。京阪電車の中書島駅から徒歩 15 分です。

●木津川希少種植生調査業務報告を 2 月 20 日をめに

2022 年度の業務報告を年内に行っていこうと力を集中しています。これまでは業務契約の期日に報告をしてきましたが、それでは管理区域の変化を次年度に生かされず、契約書と現場での食い違いが調整されずになってきており、苦労が随分発生してきていました。それを解決するために年内に報告書を提出して、新年度には現場とずれのない正確な契約書で発注されるよう改善されることを願っています。植物は大いに生育地が変わるものですから難しいですが、ぜひ改めてゆきたいものです。調査や除草作業をお願いしている皆さんには広く長く遠いところですがよろしくお願いします。

●同志社大学ボランティア 今年も来所 周遊通路設置 京田辺校地の学生さんたち約 10 人が来所予定です。11 月 27 日（日）午前 10 時に里山農園集合で白土山洞窟までの周遊通路づくりをお願いしています。この取り組みは同志社大学の学生支援センターボランティア支援室の竹村光世様からの紹介で、今年 6 月にも里山農園の丸山で植樹作業を行っていただきました。

●続いて同志社大学サッカークラブから今年（2022 年）も里山の会へのボランティア活動に行くからとクラブのマネージャーをされている田川花様から連絡が入りました。来ていただけるのは 12 月 3、4 日で、午前 10 時から 16 時までの予定だそうです。来所頂くのは両日ともそれぞれ最大規模の人数で約 20 人以上になるのではないかと予想しています。作業内容は白土山洞窟までの周遊通路づくりをお願いしようとしています。長さ約 600m の通路で通行できるところが開通できればと思っています。入り口から到達点ま

でのガイド・ロープが延伸されていますが、急な道の歩く足場が確保できるよう階段作りや邪魔になる障害物の取り除きになります。一通り完成すれば徐々に道そばの植物名などの説明看板などの設置で充実できればと思っています。他にも充実させたい事など興味のある方のお手伝いを求めています。

●京田辺市の最高峰・千鉾山(高船：311m、甘南備山は211m)への尾根筋ハイキング道の年末清掃実施を毎年行ってきました。

このコースは炭焼き体験を実施していた折、地元の打田薪炭組合の皆さんがホウズキ川（普賢寺川の支流・高船道）の峯道にハイキング道が欲しいとの声があつて関西電力道（鉄塔整備の通路）と高船と天王と穂谷道を利用すれば実現可能と見通し、地主30軒ほどを訪ね歩いて通路設置の了解を得て3年がかりで実現



したものです。朱智神社から穂谷道交差点は通路が微かにあっても放置されていてシノブや葛が両側からかぶさって通行が簡単にできるところではありませんでした。3年ほど続けて刈り取って通行ができるようになりました。また三角点（三国境・大阪・奈良・京都）が地図によって不正確でした。こうしたところを確認しながら出来上がりました。名所は豊富なのでそれぞれの地に説明看板を作り、同志社大学生の協力と高船の製材所の協力を得て近鉄の三山木駅前や天王のバス停、水取の交差点にコース案内看板を設置し、ガイドマップの作成にはオオタカやオオムラサキ、電柱が一本もない棚田風景を取り入れていただき、マスコミ各社に案内をしました。それでKBS京都放送局が現地の実況を取材放送などが取り上げ取材や放送をいただきました。単純なコースなので面白くするために絵画の張り替えることが可能な掲示板

（竹で支柱）を30か所に設置するなどの工夫をしました。最初は珍しさもあって沢山の来客がありましたが、近ごろは下火になってしまいました。コースの半分近くを普賢寺小学校が冬に一度全校生徒が踏破してくれているようです。里山の会の実現にご協力理解をいただいた高船区さんの要望で年末にはコースのごみ拾いを行ってほしい、これを行うのならコース設置に協力をいただけるとのことで毎年年末に約束を守って清掃活動を行ってきました。2022年は高船区長さんの了解を得て12月の初めに開催日を移動して4日（日）午前10時から実施いたします。集合は9時に普賢寺ふれあいセンターに集合して出発します。これまでは1組は登山口から太田尾組と、2組は朱智神社から出発して太田尾か笠上神社で合流の予定で行ってきました。今年は9時の集合ですのでよろしく願います。沢山の皆さんがお集まりいただければ、従来2組での清掃ハイキングになりますし、全コースをハイクする取り組みも可能です。大いに楽しんでいただきたいと思います。10時から15時頃に終わればと考えています。



●12月18日（日）冬の昆虫観察会 10時から 講師：桜谷保之先生によって解説いただきオオムラサキの越冬幼虫調べは25年目になります。集合は里山農園です。

●小川芳也さんの松江通信 No. 7

2度目の追放処分を受けて高天原を追われた須佐之男命は、出雲の国の肥の川上（斐伊川）の上流にある「鳥髪（現在の島根県仁多郡奥出雲町横田）、斐伊川源流の船通山の麓（10月20日第951号に掲載した斐伊川流域図の奥出雲町の「町」という漢字のあたり）」という地に降り立ちました。すると、川上から箸が流れてきました。須佐之男命は、この上流に人が住んでいるに違いないと考えて川上へ進んでいったところ、アシナヅチ（古事記：足名椎命、日本書紀：脚摩乳）・テナヅチ（古事記：手名椎命、日本書紀：手摩乳）という二人の老夫婦がクシナダヒメ（古事記：櫛名田比売、日本書紀：奇稻田姫）を中にして、泣いていました。須佐之男命がなぜ泣いているのか？と尋ねたところ、「自分たちには八人の娘がいましたが、高志（こし）の八俣（やまた）の大蛇（おろち）が毎年出てきて、一人ずつ娘を食らっていきます。とうとう最後の一人となりました。今年も大蛇がやってくる頃になりました。最後に残った娘まで食われたら、私たちはどうして生きていけばよいでしょう。」とアシナヅチは答えました。この続きは次回に…